

市民カメラマン養成講座始まる！

“街中が主人公！
市民カメラマンが創るムービストシティ”



scmn
Shonan Citizen Media Network
Shonan Video Festival Newspapers
湘南映像祭新聞

発行者
NPO法人
湘南市民メディアネットワーク
神奈川県藤沢市藤沢110-4
TEL/FAX 0466-62-2288
E-mail info@scmn.info

<http://scmn.info>

協力

江の島ボウリングセンター
TEL 0466-23-6114
藤沢市片瀬海岸2-15-22
<http://a-bowl.jp/>

cine
koya

10月より藤沢市ICT推進課からの委託事業ICTを活用した市民参加型シテーパーロモーション(市の魅力効果的に伝えること)事業の中心の市民カメラマン養成講座が開始されました。

市民カメラマンとは、藤沢に蓄積された「市民力」「地域力」を更に拡大、結集し、映像を媒介とした、市民による市民のための、そして藤沢に関心を持つ全ての人のためのICTを活用した新しいシテーパーロモーションの誕生を目指し、その担い手となる市民カメラマンを養成いたします。

地域の多彩な魅力や取り組みを、市民一人ひとりがプロモーターとなつて、より多くの人達に伝える活動やその魅力を求めて市に来る人達に感動や満足感を与え、定住につなげるための活動です。



今回参加者の9名の方はビデオカメラの取り扱いも編集をするのも初めてと言う方が多かったのですが4回の講習を終え皆さん1本の作品を完成させる事ができるようになりました。これから市民カメラマンの制作した作品は藤沢市電線マップ上にて公開する予定です。

2月14日(土) 藤沢リラホールにて本講座のフォーラムを開催いたします。

また大島渚監督、小山明子さん、撮影監督川又昂さんなど出演の映画「大島ギヤング」を公開いたします。ゲストは主演でテレビの再現ドラマなどでおなじみの片岡明日香さん、同じく主演の尾関伸嗣さん、監督の葉山陽一郎さん等です。

一般の方も無料入場できますので皆さんも是非いらしてください。

イルミネーション湘南台

2008

今年も湘南台の街にイルミネーションが灯る時期になりました。湘南台駅地下には大きなクリスマスツリーが設置され、地域の子どものちの手作りの飾りが一面に飾られています。

「このイルミネーションやクリスマスツリー、誰が設置しているのだろう？」そう思ったことはありませんか？

この一連の事業を主催しているのが、「イルミネーション湘南台」という団体です。もともとは慶応大学の研究室のプロジェクトから生まれ、今年9年目を迎える市民活動団体です。イルミネーション設置・ツリー設置以外にも、イベント等の運営も行っています。湘南台で行われるこれらのイベントには毎年沢山の人が集まり、湘南台を代表するイベントの一つになっています。

確かに、大都市のきらびやかなイルミネーションと比べて、湘南台のイルミネーションは光もまばらかもしれせん。しかし、イルミネーション湘南台が目指すものは、人とのつながりがある、あたたかい街なのです。

今年のイルミネーション・ツリーの設置期間は

*イルミネーション

2008年11月30日(日)～

2009年1月15日(木)

*ツリー

2008年11月16日(日)～

2008年12月25日(木)

となっております。

みなさんも、湘南台の温かい光に目をとめてみませんか？



■問合せ

イルミネーション湘南台2008実行委員会

E-mail: info@ilumi-shonandai.net

HP:

<http://www.ilumi-shonandai.net>

Blog:

<http://ilumi-shonandai.blog87.fc2.com/>

やっぱり

映画が好きなんだよねえ

戦後松竹映画回顧録／自作を語る
Part 2

「ビルからカメラをぶん投げたかったけど、人よりカメラのが大事だという松竹の許可が下りなかったんだよね」と自身の作品を振り返る映画撮影監督の川又昂氏。当時の俳優との話や撮影秘話をジョークを交えながら語った。

「厳しい撮影が多い中、それでもキヤメラマンという仕事を今まで続けてこられた、それを支えたものはなんですか？」という観客の問いに川又氏の顔つきが一瞬変わった。

優しく、そして少しはにかみ「やっぱり映画が好きなんだよねえ」と恥ずかしそうにつぶやいた姿は、映画を志した17歳の川又氏の少年時代を垣間見た気がした。



一人一人にこだわって 学習のコーチを40年

一ひらめく頭に変える一

自著

『お母さんは勉強
を教えないで』

草思社

書店でお取り寄せできます

小中高 個人教授 補習・受験 数英国

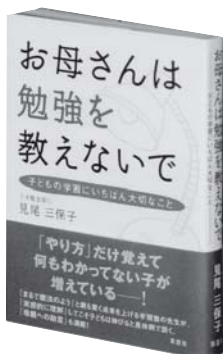
IQ EQ
知 と 心

江ノ電 江ノ島駅 2分

ミオ塾

ミオジューク

☎0466-26-3019



みんなの青木先生の映像技術講座

青木 輝勝（あおき てるまさ）

先日、とある出張先の移動中、何か気楽に読める本でも買おうかと思つて本屋に立ち寄つたところ「図解 相対性理論がみるみるわかる本」(佐藤勝彦著、PHP研究所)という書籍を発見。あの天才アインシュタイン博士が考えた相対性理論がそんなに簡単にわかるのかしらん?と思いつつもふらふらと購入。さっそく飛行機の中で読み始めた。ところがこの本、タイトル通りきちんと初心者向けに書かれていてとてもわかりやすく大変素晴らしい本であつた。そして同時に、相対性理論そのものが大変面白い。人間同様に本というものも見かけによらないものですね。読者の皆様、特に物理学が大嫌いという方にもぜひお勧めしたい1冊なのでだまされたと思つてぜひ手にとつてみてください。

さて、この相対性理論(厳密には特殊相対性理論、ざくつと言つてしまふと次のようなものらしい。

「物理量として、時間、距離、速度などがある。このうち、距離と時間は絶対的に不変なものだが速度というのは相対的なものである」というのが従来の考え方であつた(例えば同じ速度で走っている2台の車のうち一方の車の中から他方の車を見ると止まっているように見える)。ところが光速に近い超高速世界に関して言えば、実は、速度が絶対的に不変なもので、時間や距離は相対的なもの(変化しうるもの)なのである。

例えば、私たちが光と同じスピードで移動していると仮定した場合、現在移動中の光は完全に止まつて見えるのだらうか?「そんなことはない。やはり光は動いているのだらう」と考えれば光の世界においては速度が相対的ではなく不変であるという考え方もわからなくもない。ところが、このように光の速

度が変わつたと考えるとおかしいことが生じる。例えば図1の架空の光時計を考へてみよう。この光時計、上下のミラーの間を地球7周半分移動したら1秒とカウントする時計である。さて、この時計が移動中の乗り物の中に入つて

いるとしたらどうなるであらうか?乗物の外からこの時計の中を眺めると図2に示すように光はジグザグに進むことになる。このとき、光の進む距離は止まつているときと比べて明らかに長くなつているので、「速度不変」という前提に基づくと光時計は明らかに時刻の刻み方が遅れてしまふことになる。さらに言うと、もしこの光時計を光速で移動する乗り物に入れたらどうなるであらうか?図3に示すように、光時計は永遠に次の1秒を刻まなくなることは容易に推測される。以上のことをまとめて言えば「高速移動する乗り物の中では時間の流れが遅くなり、完全に光速で移動する乗り物の中では時間が止まる」ということになり、これが相対性理論の教えるところである。

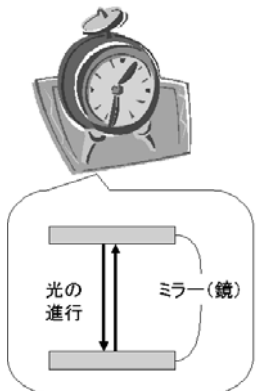


図1

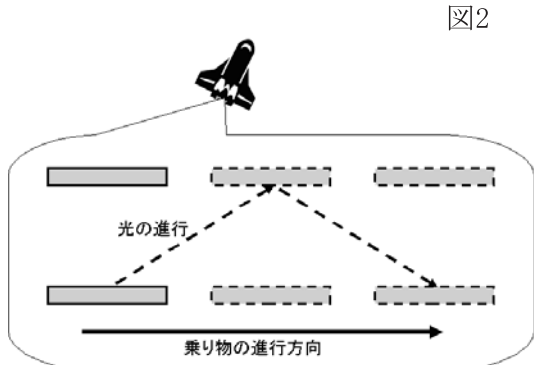


図2

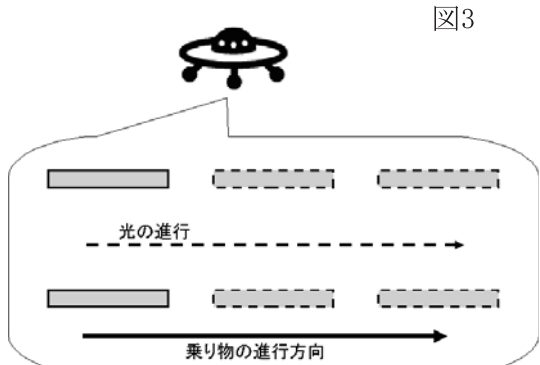


図3

は?どこかでごまかされているような気がしないでもないのだが、以上の仮説は実際に実験でも証明されておりそれゆえアインシュタイン博士は世界中で評価されているので真実と思つて問題ないらしい。

それにしても世の中まだまだわからないことがたくさんあるものですね。時間、距離、速度という超基本的な物理量すら人間は解明できていないとはまさに驚きである。

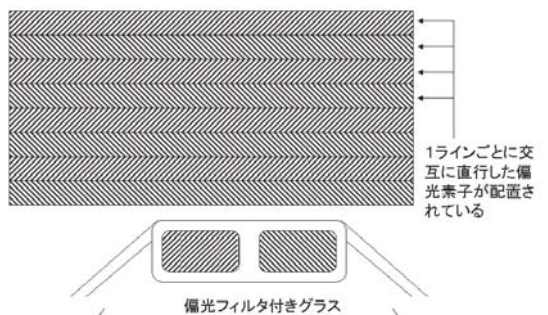
さて、ずいぶんムズカシイ前置きになつてしまいましたが、この映像技術講座では前回より3D映像を扱つてお

ります。今回はいよいよこの分野の中心的話題である3D映像ディスプレイのお話です。

3D映像を見るためのディスプレイは、これまで非常に多くの方式が提案、開発されており、具体的には、視聴者が専用メガネをかけることを前提とした方式と専用メガネなしでも立体視できる方式に大別されます。多くの人にとつて専用メガネをかけることは面倒なのでメガネなしのほうがいいわけですが、専用メガネなしの方式はメガネありの方式と比較して、画質が劣る、大画面化が難しい、高コストである、立体視できる範囲が狭い、等の性能限界を抱えているため、現在は専用メガネありの方式となしの方式が目的別に併用されています。

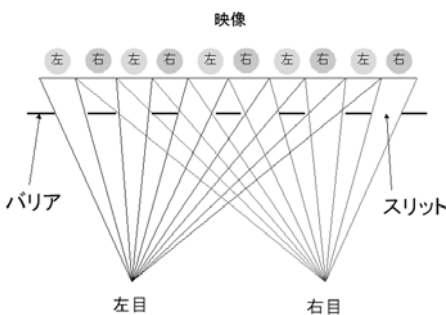
専用メガネあり型の代表的な方式としては、アナグリフ(赤青メガネ)方式、偏光メガネ方式、液晶シャッター方式などがありますが、このうち偏光メガネ方式のうちのひとつであるマイクロポール方式について概説しましょう。図4をご覧ください。これは偏光という性質を用いた方式です。ディスプレイ上の画素を横1行ずつに分け、ここに90°角度のずれた偏光フィルターというものを貼り付けますと、ディスプレイから発せられる光線は1、3、5...行目と2、4、6...行で異なる方向に偏光した光線となります。一方、視聴者がかけるメガネにも細工がしてあり、右目・左目それぞれに方向の異なる偏光フィルターを貼付します。こうすることにより、ディスプレイ上奇数行目の画素の光線は左目には見えるが右目には見えない(右目の偏光フィルターで遮断される)、同様に偶数行目の光線は右目には見えるが左目には見えない、といった性質を持つようになります。そこで、奇数行目に左目用の画像を、偶数行目に右目用の画像を表示するようにならなければ画像を作つておけば、右目と左目と異なる画像を同時に見ることができた(ただし縦の画素数は通常の半分になる)、その結果、立体視が可能となります。

図4



一方、専用メガネなし型の代表的な方式としては、レンチキュラ方式、バラックスバリア方式等が広く知られています。これらのうちバラックスバリア方式について概説します。図5をご覧ください。ディスプレイ上に光を通さないバリアが用意されています。これにより、左目だけに見える画素、右目だけに見える画素が生じることがわかります。そこで縦の奇数行目に左目用の画像を、偶数行目に右目用の画像を表示するようにならなければ画像を作つておけば、右目と左目と異なる画像を同時に見ることができ、その結果、立体視が可能となる、というわけです(ただし横の画素数は通常の半分になります)。

図5



NPO法人湘南市民メディアネットワーク
インターネット(WE B)ライブ放送が
時間帯を変え高校生が企画出演する番組
としてリニューアルし放送開始!

最近の高校生とは?そしてウオン兄さんとは?

放送日時 毎週水曜日 17:30~18:00
湘南市民メディアネットワークホームページ
<http://scmn.info>
にアクセスしWebライブ番組配信へ

青木 輝勝
(あおき てるまさ)

東北大学 電気通信研究所/
情報科学研究科 准教授
文部科学大臣表彰若手科学者賞
など受賞多数



専用メガネの有無に寄らず、以上のように左目と右目に別々の画素を見せることにより、3Dディスプレイを作ることが出来ます。ただ、その反面これらのディスプレイについては様々な問題点も指摘されています。それについては次回ご説明することに致しましょう。